議員（尾崎 忠義）

11 番、日本共産党町議会議員の尾崎 忠義でございます。

私は、平成 25 年 9 月、多度津町議会第 3 回定例会におきまして、町長並びに教育長、そして各関係担当課長に対し、1、台風 17 号による豪雨災害での奥白方観音堂川改修工事対策について、2、町内小・中学校の普通教室の冷房化について、3、人口減少時代のまちづくりについての 3 点を一般質問をいたします。

まず、発言に先立ち、台風 17 号接近時におきまして、警報発表後、水防対策本部を直ちに立ち上げ、豪雨の中、浸水被害に対し、いち早く現場に駆けつけ、日夜、水防災害防止作業に懸命に従事された職員の皆さんに心より感謝を申し上げる次第でございます。

まず最初に、台風 17 号による豪雨災害での奥白方観音堂川改修工事対策についてであります。

ことしの夏は、気象異変、異常気象下での記録づくめでありました。今までの防災気象情報といえば、注意報と警報の 2 種類でございました。警報の意味は、気象現象で重大な災害が発生するかもしれないということで、災害に巻き込まれないようにそれなりの態勢を整えなければいけないということでもあります。これが今までの警報の一段上の気象情報が去る 8 月 30 日から稼働し始めたのが特別警報で、これが発表されるのは重大な災害の危険性が著しく高まっている場合で、大雨なら数十年に一度、火山の噴火なら居住地に影響が及ぶ噴火や火砕流のおそれ大きいときとされております。数十年に一度と聞くとほとんどないようなものと思われそうですが、ある地域で数十年に一度という意味なので、結構日常的に日本のどこかで発表される状況になるかもしれないわけでもあります。

この新しい防災気象情報、特別警報は、今までの注意報や警報とは次元の違う警告だと言われております。というのは、年々、日本の気象は極端なことになりつつあります。特に、ことしは全国のほとんどの地域で、気象台開設以来の猛暑となりました。地球的規模の気候変動のせいで、常識では考えられないような気象現象が起きる可能性が、昨今急速に高まってきています。既に、9 月 16 日の大型台風 18 号で、京都、滋賀、福井に第 1 号の初の大雨特別警報が午前 5 時 10 分に発表されたところであります。

我が多度津町においても、高松気象台の発表では、6 月から 9 月初めまでの 3 カ月余りでの観測記録更新では、6 月 13 日、日平均気温の高いほうから 34.1 度で、統計開始年 1893 年より従来 of 3 位の暑さ、また西日本に停滞する梅雨前線の活動が活発となり、20 日に、日降水量 135.5 mm、月最大 24 時間降水量 171.0 mm で、それぞれ統計開始年 1893 年の従来 of 1 位 112.5 mm、また統計開

始年の1971年の従来の1位112.5mmを大きく上回り、従来の1位の記録を大きく塗りかえ、ともに順位が1位となりました。多度津における平年比の降水量は、中旬が590%、月で227%となり、このためJR予讃線では、雨量が規制値を超えたために海岸寺駅と詫間駅の間で一時運転を見合わせ、列車2本が運休、4本が遅延、また高速道路の高松自動車道でも、坂出ジャンクションと坂出インターチェンジの間、坂出ジャンクションとさぬき豊中インターチェンジの間が一時通行どめとなり、この大雨による被害額は、県内では、土木関係での河川の護岸崩壊などで約1億3,100万円、農林水産関係では5市4町の26カ所であぜなどが崩れて約1,800万円の被害であったと報道されております。そして、多度津における平年比での降水量は中旬が590%、月で227%となりました。

また、7月に入り、梅雨明けは平年より10日早く、統計開始以来第9位タイの記録となり、全般に高気圧に覆われて晴れの日が多かったものの、湿った空気や気圧の谷の影響により、日射の影響もあり、大気の状態が不安定となり、気温は平年よりかなり高く、日照時間は平年より多い月でした。このため、多度津では観測記録更新では、月平均気温の高いほうから28.2度であり、統計開始年1892年からでは、1973年7月の28.2度の従来の5位とタイでもありました。平年との比較では、平均気温では1.7度高く、日照時間では122%、降水量では74%と高温少雨の月でもありました。

また、7月における警報、注意報の発表も多く、雷注意報が実に23回、大雨注意報が3回、洪水注意報が2回、高潮注意報2回となっており、県下では落雷による停電などの気象災害が7月4日、6日、7日に発生、また県内の地震も震度1以上が7月7日、7月26日に発生したということでもあります。

そして、8月に入り、多度津では平均気温が平年値より1.2度高く、日中の最高気温37.1度が11日、12日と続き、35度以上が12日間ありました。また、夜温の最低気温も25度以上が25日もあり、寝苦しい夜が続いたわけであり、また、降水量では、上旬で37.0mm、中旬はなし、下旬は142.5mmで、月降水量では179mmで、平年に比べると82.2%で、水不足が心配された8月でございました。

そして、9月に入り、台風17号から変わった温帯性低気圧と停滞する前線の影響で、多度津では、1日、36.0mm、2日、7mm、3日、40.0mm、4日朝から午後8時までに98.5mmの激しい降雨となり、大雨による道路冠水、床上、床下浸水、畑土の流失、山では土砂崩れの発生、特に奥白方地区では、ため池4カ所の増水による大量のオーバーフロー、そして降り続いた雨のため、山からの鉄砲水で二級河川観音堂川が氾濫をし、白方幼稚園舎が床上浸水、観音堂川沿線の民家も床上、床下浸水などの被害が相次いだわけであり、8月30

日から 5 日間降り続いた雨のために総雨量が 203 mm を超えており、特に奥白方地区では三方が山に囲まれた地形となっており、南面の標高 381 メートルの天霧山、382 メートルの弥谷山、西面の黒戸山、そして北面の黒藤山などの受水面積が極めて広いために、一気に出水をし、4 カ所のため池及び水路から観音堂川に大量に流れ込み、氾濫したものと思われます。

そこで、お尋ねをいたします。

第 1 点目は、二級河川観音堂川は、過去、梅雨末期、台風時の大雨により沿線の住民の民家は幾度となく常時被害を受けており、特に白方幼稚園舎の北側に川が面しており、川幅が狭くなってきており、しかも川が蛇行しているために流速も強く、常時浸水の危険を伴って、教職員は幼稚園園舎の浸水被害対応等、幼児の子供の命を預かる立場上、大変心配をし、苦勞をされております。これらのことから、観音堂川改修工事を一刻も早く、県、地元と町は協議をして、水の危険、災害から施設、命を守るために具体的にどのような対策をとるのか。

2 点目に、河川が上流では広く、下流では狭くなっており、あつという間に川の増水による浸水が起こっており、その上河川が土砂や石で埋まっており、早急に浚渫の必要性があるが、県と町はどのように対策をとるのか。

3 点目に、個人所有の山の斜面がこの大雨で崩落し、花崗土の土砂が大量に堆積しており、放置しておくのでは危険で、県の砂防課に指導を要望したが、どのような対策をとればよいのか。

4 点目に、町内での農林水産関係は、わせ稲の倒伏などの被害はどのくらいの面積で、被害額は幾らだったのか。

5 点目に、9 月は竜巻の発生する時期であり、ことしは特に多発しており、埼玉県越谷市、松伏町、さいたま市、千葉県野田市では、9 月 2 日に竜巻が発生、両県の被害が 1,298 棟、また 9 月 4 日には、栃木県矢板市、鹿沼市、三重県伊勢市で 150 棟の建物被害が出ております。また、先日の大型台風 18 号接近に伴い、埼玉、群馬、栃木、和歌山、三重、宮城で竜巻、突風が連続して発生しており、住宅、車の破壊など、大被害で深刻な状況となっております。

我が多度津町も 2008 年、平成 20 年 9 月 21 日に、竜巻、強風、強雨、雷が発生し、三豊市詫間町や多度津町沿岸海上で、プレジャーボートなどの転覆事故が 6 件、三豊市が 1 件、多度津町が 5 件、9 人が海に転落、三豊市の 1 名が水死、その他の 8 人は救助されました。また、飛んできたガラスの破片で、町内 4 歳の男子が額を切るなどの軽傷、落雷での停電、建物損壊 44 軒でありました。

このことから、過去の災害のことではなく、竜巻は日本のどこでも発生をし、特に沿岸部で発生が多く確認されております。季節を問わず、台風、寒冷前線、低気圧などに伴い、発生、台風シーズンのこの 9 月に発生が最も多く確認され

ており、また最近 5 年間の年間平均で約 23 個の竜巻、これは海上竜巻を除く、これらが発生をし、竜巻は短時間でスピードが速く、狭い範囲に集中して、甚大な被害をもたらすことで知られており、十分に警戒をすべきであります、町では身を守るためにどのような対策をとっているのか。

次に、町内小・中学校の普通教室の冷房化についてであります。

日本列島に大きな爪跡を残した台風 17 号、18 号も通過し、朝夕めっきり秋の気配が感じられる季節になってまいりました。暑さ寒さも彼岸までということわざがあるように、猛暑、酷暑という暑さを経験してきたものの、そしてまだ体力の回復が十分でない方々は、日中はクーラーが必要な時期でもあります。そこで、公立小・中学校などの冷房工事、空調施設補助対象の範囲は、1、音楽室、2、家庭科教室、3、図書室、4、職員室、同時に整備する校長室など、5 番目に、保健衛生室、6、コンピューター教室、7 番、LL 教室、語学教室でございます、8 番、教育相談室、9、地域開放対象室等となっております。なお、使用実態が前に述べました 1 番から 9 番までと同様であれば、室内が異なっても補助対象となるわけであります。

このように、児童・生徒が学校生活の大半を過ごす普通教室などは、冷房工事または空調施設の補助対象外となっております。このため、教室の暑さは限界だ、学習効果が下がり体の不調を訴える子供がふえているとして、独自の予算で普通教室に冷房化を進める自治体も出てきており、多度津町近隣の市町の小・中学校では普通教室へのクーラー化が進んできております。地球温暖化の一因もあり、毎年夏が平年値気温を大幅に上回ってきており、昨年、ことしの開催した子ども議会でも、冷房化の要望を切実に訴えられておりました。

そのような中で、2003 年度から、公立小・中学校等が新增築、大規模改修を行う場合に限り、普通教室などの冷房化、または空調施設も国庫補助対象となりました。このことは、教師、児童、PTA などの強い要求で実現に至ったものであります。文部科学省は、2003 年 4 月 1 日、各都道府県教育委員会施設主管課長宛てに、文科省初等中等教育局施設助成課長の公立学校施設費国庫負担、つまり補助であります、この事業に係る対象経費についての通知がありました。平成 15 年度事業から適用するとして、建物の新增築改築や全面的な改造に当たり、普通教室等への空調の設置を行う場合はその経費を対象とする。なお、空調の設置に当たっては、環境に配慮した空調施設を補助対象とすると述べております。

冷房工事の対象内に、普通教室、特別教室、これは理科教室、生活教室、図画工作教室、美術教室、技術教室、特別活動室が含まれているとし、また環境に配慮した空調施設として、環境負荷のない空調施設に関する規定が掲載され、補助対象は原則として積雪寒冷地を除く地域の学校となっております、積雪

寒冷地のうち、おおむね冷房デグリデー、これは冷房に要するエネルギーを見積もるための指数で、基準温度を 24 度とし、毎日の日平均気温との差を積算したものでありますが、これらが 70 度以上かつ冷房期間 50 日以上の地域の学校は補助対象となるわけでありす。

小・中学校等の新增築にかかわる冷房化、空調施設の国庫補助は、義務教育諸学校施設費国庫負担法の第 3 条第 1 項で、校舎の新築または増築に要する経費の 2 分の 1 となっております。しかし、耐震の結果、処分制限期間内に建てかえざるを得ない場合は、同法第 3 条 5 項の公立の義務教育諸学校の建物で、構造上危険な状態にあるものの改築に要する経費の 3 分の 1 が補助対象となります。大規模改修の場合は、公立学校施設整備費国庫補助要綱で、補助率は一般地が 3 分の 1、財政力指数が 1.00 を超える地方公共団体は 7 分の 2 と定められております。補助対象工事は、建築後 20 年以上経過した老朽建物の外部及び内部について、同時に全面的に行う改良工事となっており、補助対象工事費は原則として 7,000 万円から 2 億円で、人口急増市町村については 3 億円、そして国債事業は 4 億円、これらが限度であります。

この 2003 年度から始まった普通教室など冷房化への補助事業は、対象が新增築、大規模改修だけで、既存の普通教室は対象外ですが、しかし 2006 年度より、新增築分は引き続き国庫補助対象ですが、大規模改修は交付金化されることになり、安全・安心な学校づくり交付金で、これまで事業、学校ごとに負担金、補助金の配分を行ってききましたが、設置者の地方公共団体が域内で行う事業についてまとめて交付金が受けられる仕組みに改めたところがございます。補助率、補助対象工事は従来の算定どおりです。交付金化されることで、地方にとっては使い勝手がよくなる面はあるものの、地方への税源移譲もあって、公立学校施設整備費の予算規模はさらに縮小し、その半分近くが交付金化され、国の教育に対する姿勢が厳しく問われているところがございます。

そこで、お尋ねをいたします。

第 1 点は、子供たちの要望の強い教室のクーラー化について、教室などの温度、湿度が学習面、健康面に与える影響について、実態調査、これは子供、教職員への聞き取り調査も含む、これらを行い、教室環境の基準について見直し、教育改善を行うべきかどうか。

2 点目には、望ましい学習条件について、あらゆる場面で調査すべきかどうか。

3 点目に、多度津中学校も今回前面改築をすることになったが、せめて近い将来、クーラーが設置、取り付けられるような工事仕様になっているのかどうか。最後に、人口減少時代のまちづくりについてであります。

日本は、全体で人口が減り始め、幾つかの地域では劇的に人口が減っておりま

す。しかし、今のところ、人口減少に計画的に対応している地域はありませんでした。空き家になった老朽家屋の撤去を始める、公的住宅の増築計画を見直す程度で、計画的な町の縮小は全く進んでなく、そのため無計画な縮小が起り始めておりますが、しかし幾つかの地域では人口減少に対し計画的な施策で現実的な対応が始まっており、前進を待ち取っている自治体があります。

そこで、去る8月20日火曜日から8月22日木曜日にかけて、行財政改革委員会では、人口減少に歯どめをかけるということで積極的に取り組んでいる「緑にいきづく関所の里」と知られる熊本県南関町への視察研修に参加してまいりました。この南関町は、昭和30年4月1日に1町4カ村が合併して南関町が発足し、その後昭和31年1月1日、旧米富村の三ツ川地区が玉名市に編入、平成17年に合併50周年を迎えたそうでございます。

この南関町は、九州縦貫道鹿児島線の全線開通した1995年、平成17年から人口は減少傾向にあり、住んでよかったプロジェクト推進事業を立ち上げ、人口減少については歯どめがきかないのが現状であり、最たる要因は全国的な課題である出生数の減少に加え、死亡者数の増加にあると思われ、例年100人程度の自然減があり、死亡者数を抑制するのは高齢化率の増加に伴い数字が減ることはないと言われ、平成23年度より開始した事業、特に「関所っ子誕生祝金」により、1年目の出生数は前年比の1.4倍で、10年前の水準に回復し、2年目も事業開始前の1.1倍と増加したとのことであります。

また、「住宅取得等補助金」については、平成23年4月からの事業開始で、23年度は新築11件、うち加算2件、650万円、中古住宅購入8件、200万円、リフォーム4件、うち加算3件、175万円、合計1,025万円、平成24年度は、新築14件、うち加算4件、900万円、中古住宅購入1件、25万円、リフォーム12件、うち加算9件、497.6万円、合計1,422万6,000円で、中古住宅を購入後リフォームした場合は、どちらか一方、高いほうの補助金のみ支給しているとのことでございました。

そして、「転入者引越し奨励金」は、平成23年度の開始で、平成23年度は34件の170万円、平成24年度は、35件の175万円、転入後、借家に住む人が対象なので、実家へ帰ってくる学生には通用されず、前住所地の納税証明書、これは未納がない証明書、これは必要とのことであります。また、「新幹線通勤・通学定期券購入助成金」については、新幹線開業にあわせ開始したが、平成23年度申請はなく、平成24年度、2名、平成25年度も現在2名、申請者はいずれも学生の実績であり、新幹線は学割でも費用が月4万5,000円ほどかかり、助成を受けても月4万円程度の自己負担が必要であるために申請者が少ない現状であるとのことでございました。

また、西鉄電車も利用でき、学割では月6,000円で利用できるため、西鉄電車

を利用している人が多い。新幹線開業のメリットは、帰省や出張、旅行などでの利用が容易になり、時間的に短縮でき、また新大牟田に情報プラザがオープンして、新玉名駅に玉名観光協会が入ったため、情報発信の場として利用しやすくなったが、デメリットとしては、修学旅行や一般観光旅行で、熊本を素通りして鹿児島へ行く団体がふえたとのことであります。そして、「空き店舗等活用事業助成金」の実施により、平成23年度が3件、平成24年度が9件の実績、業種としてはカフェ、美容業、雑貨製作販売、わら縄加工卸業など、町外からの開業も多く、業種も多岐にわたっており、空き店舗や空き事務所などを活用され、町の活性化につながっており、空き家バンクの登録については、住宅の売却2件、賃貸1件、宅地の売却2件、店舗の賃貸1件という現状で、事業開始から登録がふえていないとのことであります。

また、空き家の撤去費用助成については、空き家の有効活用とあわせ、地域周辺への環境悪化など悪影響を及ぼすおそれのある物件に対しては撤去費用の助成などについて議会で数回取り上げられており、地域住民からも同様の相談を受けたことがあるとのことでした。その他の事業としては、「新築住宅固定資産補助金」「結婚報奨金」「こども医療費助成金」「保育料助成金」「小中学校給食費補助金」「学童保育事業」「新規雇用奨励金」「太陽光発電システム設置費補助金」「タクシー料金助成事業」「空き家バンク事業」「買物宅配サービス事業」の合計18事業を実施しているのが、南関町のまちづくり推進課が主体となって、町行政、議会、住民が一体となって進めている南関町定住促進対策としての住んでよかったプロジェクト推進事業であり、着実に実績を上げており、大いに勉強になったところでございます。

そこで、お尋ねをいたします。

第1点目は、南関町では、人口減少のまちづくりとして、町行政の積極的な政治姿勢が感じられたが、我が多度津町では若い人が定住するような助成、補助などの新しい事業を立ち上げるべきだと思うが、どのようなものがあるのか。2点目に、多度津町定住促進対策としてプロジェクトチームをつくり、住民の意見、要望を取り入れて取り組んでいく必要があると思われるが、町長はどのように考えられるのか。

以上、3点について、町長及び教育長、並びに町当局の答弁を求め、私の一般質問を終わります。

以上です。

町長（丸尾 幸雄）

尾崎 忠義議員の人口減少時代のまちづくりについてお答えをしてみたいです。

全国的に少子・高齢化が進み、人口減に頭を悩ませている自治体が多いと思い

ます。施策には、いろいろ多種多様ですが、それぞれの自治体に合致した施策を考えることが重要だと思います。多度津町の場合、借金が多く、確実な返済を実行しなければなりません。多度津中学校や消防庁舎の建設など、新たに発生する借金にも対応していかなければならない困難な財政運営を迫られております。そんな中で、財政規律を守り、費用対効果を最大限生かしていくことを考えております。助成金や補助金のみの対応ではなく、できるだけ町財政に負担をかけずに移住、定住人口をふやしていくことを考えていく必要があると思っております。

例えば、多度津で生まれた子供たちが一旦は町外に出ても、再び帰ってきて生活できるような環境づくりも必要と考えます。そのためには、就活、婚活の実施、また歴史ある町並みを生かした古民家の再生、特産物の振興による農業、漁業を助成し、耕作放棄地と担い手不足の解消に結びつくようなUターン、エコタウン促進を図っていこうと考えております。尾崎議員ご指摘のような多度津町定住促進対策としてのプロジェクトチームは組まなくても、政策企画課を担当課とし、住民の要望に応えられるよう努力しておりますので、ご理解賜りたいと思っております。

一朝一夕には効果はなかなか上がらないと思っておりますが、長期ビジョンで実施して、多度津町を元気にしていこうと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げます、そのほかのご質問に対しましては、教育長はじめ、各担当課長より答弁をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

政策企画課長（岡部 登）

尾崎議員の人口減少時代のまちづくりについてのご質問のうち、定住人口増加に向けた新しい事業についてに対し、答弁をさせていただきます。

先月の視察には、私も同行させていただきました。南関町は、熊本県の北西、福岡県との県境にあります。人口約1万200人、面積は68.9平方キロメートルの町です。多度津町の人口が約2万3,200人、面積が24.34平方キロメートルですので、約3倍弱の面積に、約半分の人口が住んでいる町であります。また、昭和30年の合併後は、合併を行わず、本町と同じ単独での町政運営を行っている町でもあります。予算規模は、一般会計が、平成25年度、55億8,948万1,000円で、本町の76億7,000万円と比較しますと約73%の規模であります。そのような南関町ですが、人口はここ20年間に1,680人ほど、約14%減少しています。

本町の人口減少は、同時期に675人で約3%となっております。そのため、南関町は議員がおっしゃるようなまちづくり推進課が中心となり、町役場、議会、住民が団結して定住促進対策に力を入れ、全18事業を推進しています。

その18事業を個別に見てみますと、妊婦に対する健康診査であるとか、子供

の医療費助成、保育料の減免、太陽光発電システム設置費補助金など、本町の施策の中にも似た事業が9事業ほどございました。また、「関所っ子誕生祝金事業」では、第1子が10万円、第2子が20万円、10万円ずつ上がって、第5子以降は50万円など、本町で実施するとなるとかなりの予算規模になるであろう事業も複数ございましたが、議員おっしゃるとおり、地元の新聞にもその成果が掲載されるほどの結果を出した事業もございました。

翻って本町を考えてみますと、現在の人口減少率はそれほどではありませんが、それがいつ上昇するかわかりません。そうならないためにも、定住人口を少しでもふやす努力を怠ってはならないと考えております。そのためには、議員のおっしゃる新しい事業を考えていくことも必要で、昨年より東京、大阪などで移住、定住に向けた合同の説明会に出店するなど新たな取り組みも行っております。また、それにも増して、より質の高い行政サービスを提供し続け、継続していくことが肝要であり、多度津町に住んでよかったと少しでも多くの方々に思っただき、住み続けていただけるよう、単独の事業に限らず、職員一同、毎日が勝負であると自覚し、それぞれの職務に精励してまいりたいと考えております。

以上で尾崎議員の定住人口増加に向けた新しい事業についてのご質問に対する答弁とさせていただきます。

教育長（田尾 勝）

尾崎議員の町内小・中学校の普通教室の冷房化についてのご質問にお答えいたします。

まず、1点目の教室等の温度や湿度が与える影響については、ことしの夏も猛暑、酷暑と呼ばれる日が続いたことから、各小・中学校の普通教室において、教室に設置している温度計により午後1時の温度調査を実施したところがあります。教室の温度については、文部科学省が定める学校環境衛生基準によると10度以上30度以下が望ましいとされています。さて、調査ですけれども、30度以下の教室もありましたが、高いところではありますが、わずか1日ではありますが、1つの教室において37度という調査結果も得られております。2点目の望ましい学習環境については、あらゆる面で検討すべきというご指摘については、快適な学習環境を少しでも確保するために、昨年度町内の各幼稚園の保育所、遊戯室、各小・中学校の普通教室に扇風機を設置し、エアコンの整備による健康面への影響や設置費、維持費、維持管理費等についても協議を重ねているところでございます。

3点目の多度津中学校の改築については、既に計画等でご案内のとおり、各教室においてもエアコンを設置することで進めております。小学校のエアコン設置については、協議段階ではありますが、快適な学習環境を確保することは重

要な課題であります。扇風機によって体感温度を下げたり、植物による緑のカーテンやすだれ等の設置によって日射を防いだりすると、今できることを進めていくことで、今後も望ましい学習環境を少しでも確保できるように、学校や保護者、児童とも協力しながら進めてまいりたいと思いますので、ご理解をいただきますようお願いし、尾崎議員の質問に対する答弁とさせていただきます。

建設課長（島田 和博）

尾崎議員のご質問の1点目、ご心配をいただいております二級河川観音堂川改修についてでございますが、冒頭、渡邊議員の質問に対する答弁で申しましたように、長雨による地山、田畑、ため池もこのとき飽和状態となっていたためと推測をされます。いずれにいたしましても、応急かつ適切な対策工事の早期着手、田畑の復旧工事はもとより、幼稚園、被害住宅への対策をとるとともに、抜本的な改修計画を早期に立てられるよう、陳情要望書を地元自治会及び地元議員のお力添えをお願いし、県に提出したいと考えております。

2点目の河川の土砂撤去等につきましては、下流部分において、県に対し緊急要望しております。また、町道、排水路部分の撤去は、町として早急に行いたいと考えております。

3点目につきまして、奥白方、黒藤地区の山林崩壊箇所のことでありましょうか。水防活動報告の中で、パトロール中発見をいたし、土地地目が山林でありましたので、産業課のほうで県林務課に問い合わせをいたし、土地所有者に聞き取りをしたところ、四十数年前に個人が造成し畑地にしたとのことでありました。また、自然林でないので、林務関係の補助等については難しいとのことでありました。今後につきまして、県の指導等を仰ぎ、町としても対処していきたいと考えております。なお、当該現場については砂防指定地ではございませんでした。

以上、簡単ではございますが、尾崎議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

産業課長（岡 敦憲）

尾崎議員のご質問のうち、台風17号による町内での農林水産の被害状況についてのご質問にお答えいたします。

農業共済に問い合わせたところ、79枚の圃地で稲の倒伏が見られたとのことですが、面積は確認中であります。なので、詳細は不明ということであります。多度津の田の平均的な広さが6から7aくらいなので、5haの被害があったのではないかと推定はしております。その他の作物、果樹、施設園芸作物についての被害報告はありませんでした。尾崎議員の台風17号による農林水産関係の被害については以上のように把握にとどまっております。ご理解賜りますようお願いを申し上げ、答弁といたします。

総務課長（石原 光弘）

尾崎議員ご質問のうち、竜巻の警戒について、町では身を守るためにどのような対策をとっているのかについてお答えいたします。

まず、竜巻は積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、ロート状、また柱状の雲を伴います。直径は数十から数百mで、数kmにわたって移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。竜巻から身を守るためにとのことですが、竜巻に遭遇した人からは次のような声がありました。雲の底から地上に伸びるロート状の雲を見た、飛散物が筒状に舞い上がるのを見た、ごおっという音がしたのでいつもと違うと感じた、気圧の変化で耳に異常を感じたなどです。

このような場合には身に危険が迫っていることが予想されますので、すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難していただきたいと思えます。避難する場所や方法として、屋外では、頑丈な構造物の物陰に入って身を小さくする、シャッターを閉める、電柱や太い樹木であっても倒壊することがあるので離れる、激しい雨の中を歩くのは危険であり、川の場合あつという間に水かさがふえ流れが激しいので川のそばから離れる、そしてしばらくの間丈夫な建物の中で見守ることをごさいます。

建物の中でも、1階の窓のない部屋に移動する、窓やカーテンを閉める、丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして、頭を守るなどの行動をとってください。竜巻の災害については、予想することは難しく、自己防衛に頼らざるを得ない状況にあると思えます。これらの情報、対応策は、気象庁のパンフレットやインターネットでも掲載しており、個々に確認していただきたいのと、町としては防災教室等で啓発活動を行ってまいりたいと考えております。以上、簡単ではありますが、ご理解賜りますようお願いを申し上げ、尾崎議員の答弁といたします。

議長（門 瀧雄）

以上で尾崎議員の一般質問に対する答弁は、町長、教育長、各担当課長からありました。尾崎議員、再質問があればお受けいたします。

議員（尾崎 忠義）

観音堂川改修工事の対策でございますが、一応改修工事はかさ上げするというので、朝からの答弁がありましたが、ちょっと具体的に400mまでというのはどこまでの地点かをお伺いしたいと思います。

それから、観音堂川というのは、八王子池からずっと北原地区流れておるんですが、上池より上、これを河川が観音堂川でないということを聞いております。しかし、そこが池に流入する川が非常に堆積が土、草が生えて、ほとんど川の体をなしてないということでもあります。県道がつくからということそのまま

になって、なかなかつかない。川という川がご存じのとおり、山が、黒戸山からおりてくる水が非常に多いので、そういう意味で既に上池も土砂が堆積をしております。手前に砂防の堰堤があるんですが、それに到達というんですが、川が非常にあふれる状況が多いということでございます。

そういう意味で、もちろんこれは砂防課の担当という意味で、この道路工事まとめてそれするんか、それとも浚渫工事ができるんか、ちょっとお伺いしたいと思いますが、県ではそういう実情をつかんでいないということでございますので、ひとつその辺をちょっとどういうふうにお考えかということでございます。

それから、次の教室のクーラー化の問題でございます。このクーラーはご存じのとおり、非常に今近隣はクーラー化しておるんですが、特に多度津町の場合は、校舎が口の字型、もしくはコの字型になっておりまして、非常に通風が悪いということで、非常に部屋が暑くてたまらんということで、生徒は非常によく耐え忍んでしておるわけでございます。

また、校舎も外廊下になっておりまして、特に教室内の温度が非常に上がっているということでございます。それで、そういう中で、ほとんどのところでは職員室とか校長室、それから会議室、それからパソコン教室、保健室、先ほど申しました規定のところは入っておるんですが、聞きますと、3階建てのところでは1階は何とかいけると、しかし2階、3階は非常に厳しい暑いということでございます。

そういう意味で、これについて実態調査では、先ほど教育長が申しましたように、37度以上もあるということでございますが、これでは授業どころでないんで、実際に例えば習字の練習をしてるんだが、汗が出てぼたぼた紙の上落ちて習字ができないということで、近くの地区公民館を借りて習字の練習をしているとか、そういう耐えがたい中でそういうふうなやっているとございまして。

ですから、中でもせめて図書室でもクーラー化するとか、あるいは休憩のときに避難するというたらかしんですけど、やっぱり一服するというふうなところができないもんかということでございます。ある幼稚園では、3歳児というのは抵抗力も少ないし、背丈が低いから、直接外で遊んだりしたら反射熱で非常に熱中症になりやすいということで、一旦職員室クーラーありますから職員室に入れて退避していると。そういう熱中症対策を対応しているということで、そういう意味から見ましたら、このクーラー化というのはやはり必要ではないかと思っておりますので、この実態調査が1回だけではなくて、やはり実態をきちっと校舎の地形とか環境もあるんですが、そういう意味で、ぜひ必要なということを教職員やPTAや保護者の方から聞くということが、今必要ではない

かということで提案しておりますので、この調査の方法とかあれについて、今各教室ではやはりその調査ももう 30 度以上になったらこれ限界ですから、せめて 28 度ぐらいになるようなそういうクーラー化というのが必要だということで、ぜひ実態調査について、改めてするのかどうかというのを伺いたいと思います。

それから、人口減少時代のまちづくりということで発言しましたが、今多度津町の人口がことし、去年ですか、2 万 3,280 人だと。で、昭和 55 年の統計から見ますと 890 人ぐらい減少しております。そういう意味で、今昭和 55 年から統計を見ますと、世帯数はふえておるんですね。140 世帯ぐらいふえておるんです。世帯がふえておるのに人口が減少していると。そういう何か矛盾点があるんですが、これは出生率と死亡者との兼ね合いから見ても、大体年間 200 人前後が亡くなっておるんですが、出生者が百七、八十人ということで、当然自然減とはなるんですが、こういう意味からして、特に最近平成 24 年には数字が高くなっております。

そういう意味から見て、これは高齢化が進んでいるということはそういう事実だと思うんですが、やはり定住促進対策として、そういう先ほど町長並びに企画室課長が発言されておりますが、多度津町で独自の、やはり独自の本当にお金をかけないでというたらおかしいんですが、そういう対策というのをもう少し考えるべきだと思うんですが、再度その点についてお願いしたいと思います。3 点です。

建設課長（島田 和博）

尾崎議員の再質問に関しましてお答えをいたしたいと思います。

観音堂川の改修についての具体策とかさ上げ等の箇所はどこかということでございました。一応、河口口から 400m というと、ちょうどブドウ集荷場がある町道にへいたいするところまでということで計画をしておりますが、河口口については一部若干のかさ上げをいたしております。団地付近も町道の川西阿庄線のために間口を大体県の協議のもとに広げております。

結果論としては、一番私が先ほど申しました抜本的にというのは、やはり河口口からいかないかんということでございまして、前回の去年、県に陳情要望した際の諸事情というのは、やはり河口口の県道及び線路、軌道があることです。現実に若干詰めた話をすると、軌道はやはりいらうとすれば迂回路、軌道の迂回路を考慮していかないと工事にならないという県の検討でもございました。

そのためには、莫大な時間と莫大な工期がかかるんでありますが、我々町といたしましては、やはり何十年かかってもこれはやり遂げないと、今回の被災はまた繰り返すということになりますので、ただそういう指くわえて見よるわけ

にはいきませんので、現実の対応として県にお願いしとったのが断面是正です。やはり集荷場裏、幼稚園裏については、蛇行の上に水路断面が根固めといいまして、昔の護岸に前に基礎部をだかして補強しております。これが一つの断面が小さくなっておる部分でございます。それと、ゆがみと勾配です。全てがそこに集中しております関係上、たび重なるこういう災害が起きるということでございます。この分について、ことしの設計の段階ではかさ上げ工法ということの中で対処ということで、断面を少しでも大きくということできせていただいております。

地権者の方等につきましては、用地はかかっても構わないというご意見もいただいております。ただ、今の現段階で、まだ台風シーズンでもございますし、来年もございますから、来年抜本的な工事が開始されるとも思っておりませんので、今の中で最小限に食いとめる施策として、かさ上げの段階でもちよっともう一遍再度検討しなければならない部分もございまして、それを町としてもう一度検討して、早期にその設計変更、内容変更なりを求めていくつもりにしております。そして、八王子池上流とか、上池の上流というのは確かに多度津善通寺線の改良が下池のところにとまっております。これにつきまして、一部黒戸側の砂防河川がございまして、この部分についての堆砂も認めておりますし、また観音堂川上流の八王子池というのがありまして、この八王子池の上流部分をもう数年前に砂防ダムが完成いたし、その間が流路工として制御なされておりますが、ここにも土砂が堆積しておるのも現状でございます。

この件に関しまして、当面県の考え方をお聞きする中で、協議したりしながら、撤去できるものはお願いしたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、答弁とさせていただきます。

町長（丸尾 幸雄）

尾崎忠義議員の再質問のうち、移住、定住促進策についてお答えをしております。

今先ほど議員お話の中で、人口は減少しているが世帯数は増えているという、このことは私思うのに核家族化が進んでいるということだと思います。これは、今100何世帯ふえていると言いましたけど、もっと増えております。平成20年だったと思いますが、今までで200何件の世帯数がふえていると思います。それは好ましいことではありませんが、子供たちが親と一緒に住まないで、大家族ではなくて世帯を分けて別のところで生活をしている、同じ多度津町内ということになります。そのために、核家族化が進んでいるために世帯数がふえていると考えております。

また、移住、定住促進策といたしまして、今先ほども答弁の中でお話を申し上げた繰り返しになるかもわかりませんが、少し説明をしながらお話をしてい

たいと思っております。

まず、多度津で生まれた子供たちがやはり多度津に帰ってきて、そして親と一緒に同じ場所で住んでいただきたいと思っております。

そのためには、やはり子供たちがこちらに帰ってきて、就職をする場、就職環境をつくり出すことが大変重要ではないかと思っております。そのために、就活ですね、就職活動、それから婚活を今考えておりますが、就職活動につきましては今、商工会議所と提携をしてやろうと考えておりますが、今商工会議所のほうで町内の企業のそういう情報がわかるのは9月いっぱいにかかるということですので、9月末までを待って、どの企業が何人ぐらいどのような人材を欲しているのか、そういうことを調査をして、そして少なくともホームページには記載しようと思っております。

そのほかにもいろんなところで皆さん方に、町民の親なり、そういう子供たちに発信できるようなシステムをつくりたいと思っております。婚活につきましては、去年商工会議所青年部と共同で婚活を行いました。多度津の町並みを探索しながら多度津町を好きになっていただきたい、そして多度津町で結婚をして多度津町に住んでいただきたいという目的の中で、去年婚活を行いました。ことしもどういう形になるかわかりませんが、そのような趣旨のもとで、商工会議所青年部と合同でやろうと思っております。

また、歴史のある町並みを生かした古民家の再生ということですが、今商店街界限には本当に歴史のある重みを持った古民家があります。そういう古民家の再生をしようとしている団体、個人もおりますので、そういう方々と提携をしながら、そういう方々、個人の企業等では町は一緒にできませんので、NPO法人とか、また社団法人とか、そういう形で一つの法人をつくっていただいて、そこと町とが一緒になって町並み再生、古民家再生に努めていこうと思っております。そのことに関しましては、観光協会の会長も入っていただいて、そして今打ち合わせをしているところであります。まだまだ皆様方にご報告できるような成果はまだ上げられておりませんが、それに向けて頑張っているところであります。

それと、Uターン、エコタウンを増やすために、農産物とか海産物、また町の特産物、そういうものを販売できる直売所を開設したいなと思っております。それは、まだ今検討中ですので具体的には申し上げられませんが、海のほうで、海岸のほうで1カ所、また今回この9月議会で皆様方にご提案しております土地開発公社を買い戻しをいたします土地、その土地も新たな財源が生み出せるような直売所、またさまざまな効率のある活用をしていこうと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上で尾崎議員の再質問に対する答弁といたします。

教育長（田尾 勝）

尾崎議員のご質問にお答えします。

大きく2点、1つは実態調査についてということで、今回の調査については1週間ほどの調査でありました。さらに、やはり議員ご指摘のとおり、詰めた客観的なデータが出たり、あるいはその中で活動している生徒とか児童とか、あるいは教職員の状況の実態等についてもしっかり把握していくということで、実態調査を引き続いて行っていきたいなというように思います。具体的には室内の温度だけでなく湿度、また時間も1時だけでなく何時間か、時間帯に応じて実態調査する、その中での子供への調査とか、あるいは教職員の調査等をしていきたいなというふうに思います。

もう一点ですけれども、いろんな見地からエアコン設置というのは考えなければいけないと思っておるわけですが、もちろん財政的な側面というのも大きくあるんですけれどもそれ以外に教育的な観点から申しますと、子供のエアコン設置によって、子供の本来持っている、育てなければいけない身体的な機能が低下するおそれがあるのではないかとということも十分検討していく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

また、これは情緒的にはなるんだと思うんですけれども、日本の教育はやっぱり四季折々の四季の自然を感じながら勉強をしっかりとっていくという風土があるように思います。やはり暑いときには暑いながらとか、寒いときには寒いながら、しっかりと頑張っていく、それを味わいながら勉強していく、そういう日本の教育のよさもあるわけで、そういうよさも四季のあれを感じなくなるようにはなっていないなということも考えたりしております。いろいろな側面からエアコン設置について身体面とかあるいは教育面とかいろんな面から検討してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。終わります。

議長（門 瀧雄）

尾崎議員さん、よろしいですか。

議員（尾崎 忠義）

再々質問いたします。

先ほど観音堂川のことですが、下からやっていくということで、県道それから線路を越えていくのは非常に難しいということですが、既にご存じのとおり、弘田川では先般の17号台風、18号台風で観音堂川出たところ、土砂が堆積しとんで、結局あれだけ川にあんだけ砂が堆積しているところから見たら、下はある程度、先ほど島田課長が言いましたように、かさ上げ工事はやっているし、一部そりやまあ鉄道の下が狭くなっていることがありますが、ほぼそこら辺では問題ないように思われます。

問題は、先ほど言いましたように幼稚園から上ですね。これかき上げができないもんかどうかということで、やっぱり被害を受けるところはどうしてもかき上げが必要、それから先ほど言いましたように、その狭くなっている幼稚園のすぐ横のところも除去して拡張するというお話でございますが、今のところ被害が出るというのは、その上が蛇行しているということがあって、かき上げ工事はその上が必要ではないのかなということで、これはできないものか。それと、一部、柳原さんのところの前が、道路が今回の分はそうなんです、入り口の橋が道路とたいたいになっているんで、そこに流れてきた草とか木とかがひっかかって大被害を起こしたということもありまして、そこら辺を見ますと、やはりその沿線、できたら幼稚園以降のこのかき上げができないものかということで、それはもちろん県工事ですから下からいかないかんがということですが、その分をちょっとお考えを聞きたいと思えます。

それから、クーラー化の問題ですが、今ハード面でなくてソフト面で対応できないかということです。もちろん調査して、その後に、例えばことしのような異常気象の場合、夏休みを長くにとって、結局授業ができないんですから、先生も暑いし、生徒も暑いと。そういうことで、やっぱり夏休みを長くにとって、そのかわりに土曜日にこの授業をすとか、何かソフト面で工夫が、クーラー化ができん場合、施設ができるまでに何とかそういうふうにはできないもんかなと。それやったらお金も要るわけでないし、何とか子供もそういう意味では暑さ、熱中症対策にもなるということでございますが、そういう面も一つは考えていかなければならないのではないかと思います、この2点について質問をさせていただきます。よろしくお願ひします。

町長（丸尾 幸雄）

尾崎議員の再々質問の中で、観音堂川の河川改修についてお答えをしております。

この観音堂川につきましても、私が町長に就任させていただいてから大きな命題として検討し、取り組んでいる河川になります。

その中で、今尾崎議員のほうからお話がありましたが、こういう河川改修は河口から、河口から整備をしていくのが原理原則、それは川の流れというものを考えた場合のことですので、幾ら上流で河川改修をしても、川が流れが最終的に流れがとどまっていたのではそれは水はけが悪くなります。

やはり河口のほうからだんだんと工事をしていくというのは、護岸工事も、それから掘削をしてそしてたくさん水が大量に流れていく、そういう状況をつくるために河口から徐々に改修をしていくという工法をとっているわけでありまして。この観音堂川の場合は、弘田川に流れ込むところの掘削も必要になってきます。それよりもまず一番肝心なのはJ Rの線路です。先ほど島田課長の

ほうからもご説明申し上げましたけども、このJRの線路というのが大きなネックになってます。ここの今県のほうにも強い要望を出しております。

そして、多度津町から選出の県議会議員とも常に連携をとりながら、この問題を早く早急に解決しようと思っておりますが、今私が聞いているところによりますと、まず時間もかかるんですが、JRの線路の下だけを掘削して、幅を広げて、工事をするのに最低1億円はかかるということです。県はなかなかそれだけのお金を早急に出す計画がない、資金の融通がきかないということも聞いております。しかし、それを待っているわけではありませんので、先ほど島田課長のほうからも説明がありましたが、上流のほうからもかさ上げ工事、また拡幅工事、そういうことも随時やっつけようと思っておりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

教育長（田尾 勝）

尾崎議員のご質問にお答えします。

先ほど尾崎議員のほうから長期休業中を、夏休みの長期休業中を長くにとって、そして土曜日の授業をとということの一つの提案があったわけですが、それについても一つの検討の材料にはなるのではないかなというふうに思います。ただ、その際に、土曜日の授業となると、教職員の勤務とか、今、週5日制の事柄とも関係しておりますので、いろんな条件整備をする必要があるのではないかなというふうに思います。ただ、今のご提案についてもまた検討の材料にしておきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上です。

議長（門 瀧雄）

これをもって11番 尾崎議員の質問は終わります。

それでは、これをもって一般質問を終了いたします。

本日の日程は、全部終了いたしました。

これにて散会をいたします。お疲れさまでした。